



FY2020 調剤市場分析

コロナ禍で、患者（消費者）の意識に変化が現れた。医療圏にある薬局から生活圏にある薬局（主にドラッグストア）に処方箋が持ち込まれるケースが増加。

テトラコンサルティング株式会社

山岸 匠

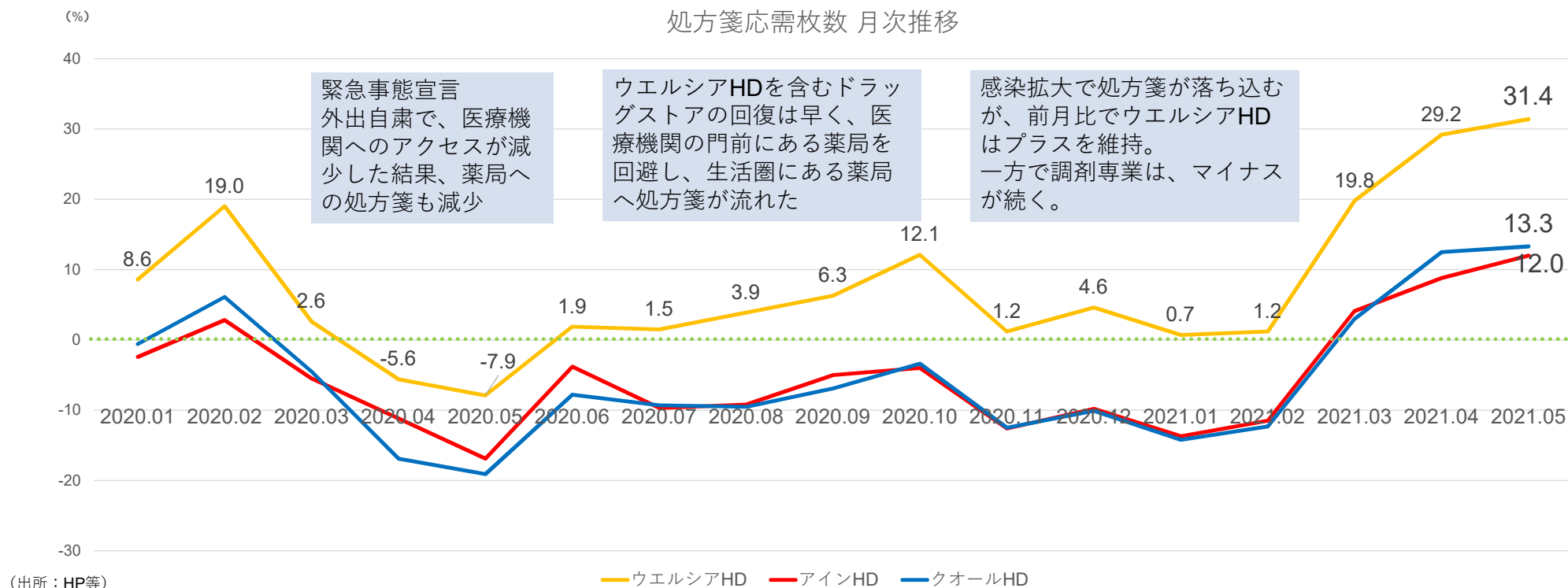
Disclaimer

テトラコンサルティング株式会社（以下 テトラコンサルティング）が作成したこの資料は、未公表の秘密情報が含まれている可能性があり、著作物として著作権法その他の法令に基づき保護されています。テトラコンサルティングが作成した資料および口頭にて説明した件については、ご提供した目的以外の目的で使用したり、テトラコンサルティングに無断で転載、複製、公開等することを禁止します。

テトラコンサルティングが作成した資料については、利用者が行う全ての行為について何らかの責任を負うものではありません。

出店の立地が異なる3社で比較、コロナ禍で医療圏から生活圏に処方箋は流れ、食品等を扱うドラッグストアに有利な展開

処方箋応需枚数 月次推移



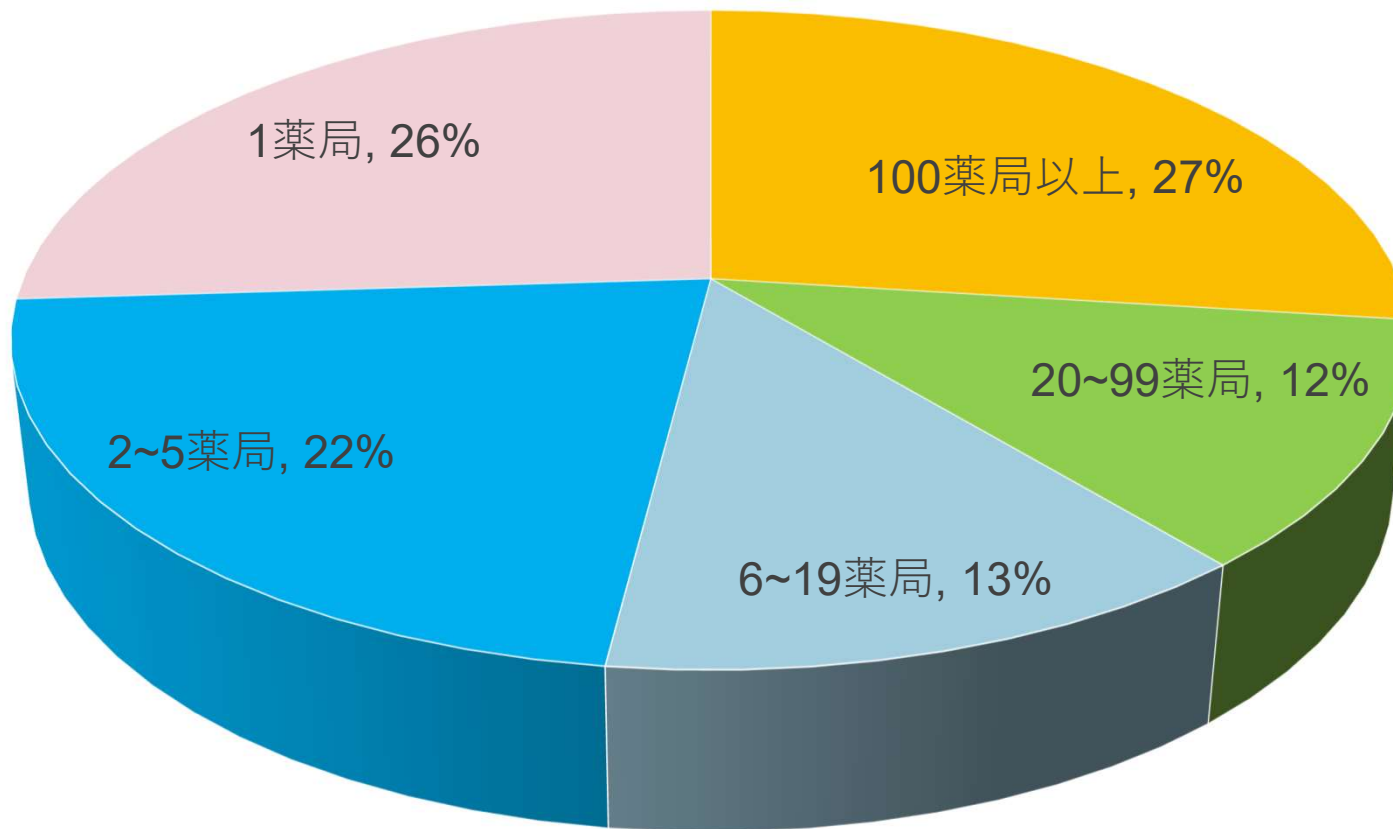
緊急事態宣言
外出自粛で、医療機関へのアクセスが減少した結果、薬局への処方箋も減少

ウエルシアHDを含むドラッグストアの回復は早く、医療機関の門前にある薬局を回避し、生活圏にある薬局へ処方箋が流れた

感染拡大で処方箋が落ち込むが、前月比でウエルシアHDはプラスを維持。一方で調剤専門は、マイナスが続く。

- 3社で比較した。出店の主な立地が異なるため、処方箋の流れを分析しやすい。
- ウエルシアHDは、消費者の生活圏内に店舗（多くのDgSは同様）。
- アインHD（主に大病院門前に店舗）、クオールHD（主にクリニック門前に店舗）は、医療圏内に店舗。
- コロナ禍で、患者（消費者）の行動に変化が現れ、生活圏内で薬を受け取る習慣に変化している。

調剤薬局の規模別構成



- 20薬局未満の割合は、61%に達する。
- 寡占化が進んでいないため、ITやDXの遅れの要因となっている。

(出所) 日本保険薬局協会が、2021年3月時点の薬局調査結果を発表。その資料を基に作成。

FY2020 調剤事業比較

